

整備の概要

暮らしに様々な効果をもたらした環状道路

金沢外環状道路の整備により、道路沿線地域の街並みは大きく変わり、金沢市内外の交通ネットワークが飛躍的に強化されました。安全で快適な通行環境も整備され、暮らしやすく、快適なまちへと生まれ変わりました。

■ 地域高規格道路※¹『金沢外環状道路』は、金沢市内を通過する交通の迂回と市内へ向かう交通の分散を目的に整備が進められ、山側幹線（以降、「山側環状」※²）が平成18年4月15日に全線開通しました。

■ 山側環状は、国土交通省・石川県・金沢市・土地区画整理組合により整備が進められてきました。特に主要地方道金沢小松線区間（13.8km）では、土地区画整理事業によるまちづくりと一体となった道路整備が行われました。

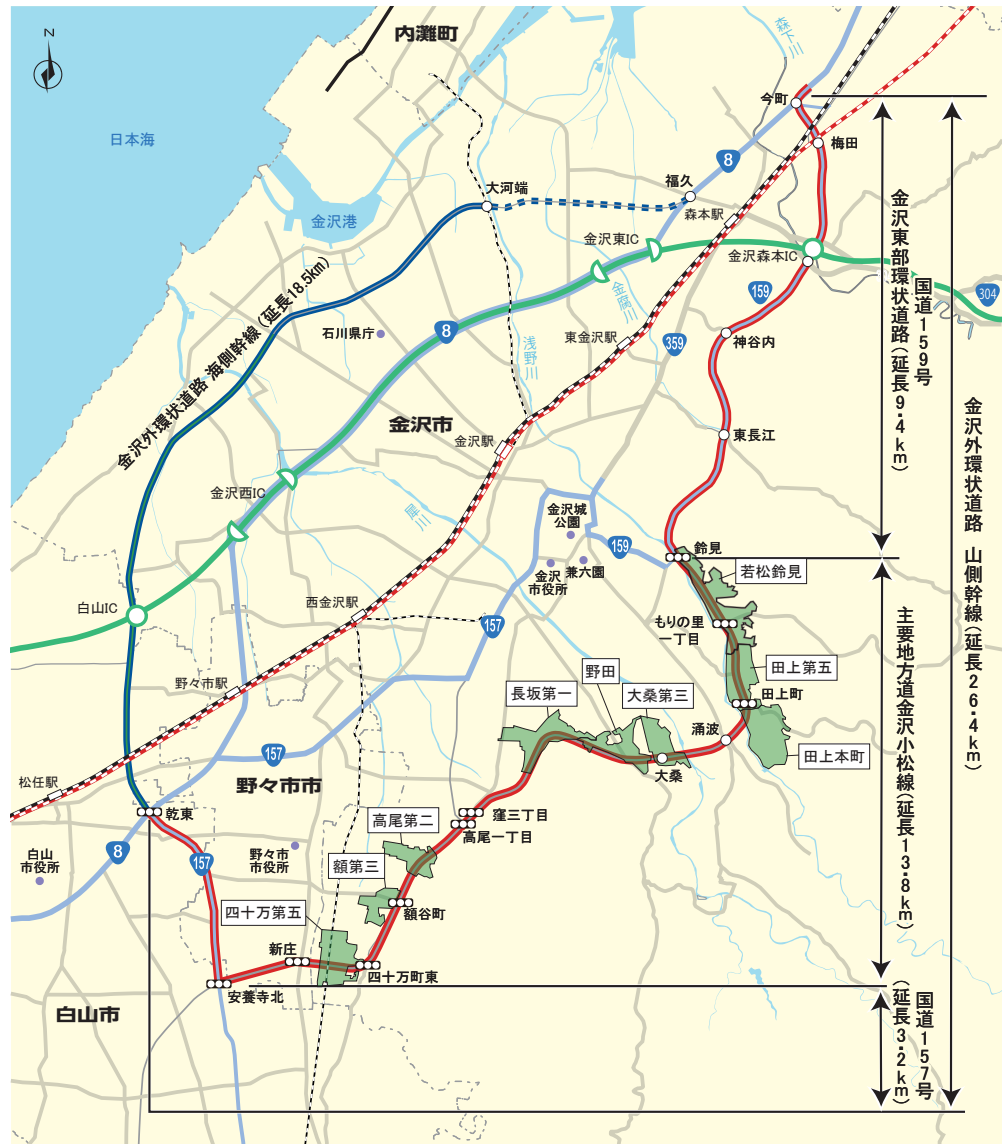
■ 現在は、山側環状の一部である国道159号金沢東部環状道路（今町～鈴見）の4車線化や海側幹線（大河端～福久）の整備が進められています。

※¹ 地域高規格道路

高速道路などの高規格幹線道路と一体となって、幹線道路ネットワークを形成する規格の高い道路。「金沢外環状道路」は、平成6年12月に地域高規格道路の計画路線に指定

※² 山側環状

全線開通にあたり、平成18年2月、公募により決定した通称名「山側環状」が愛称として決定

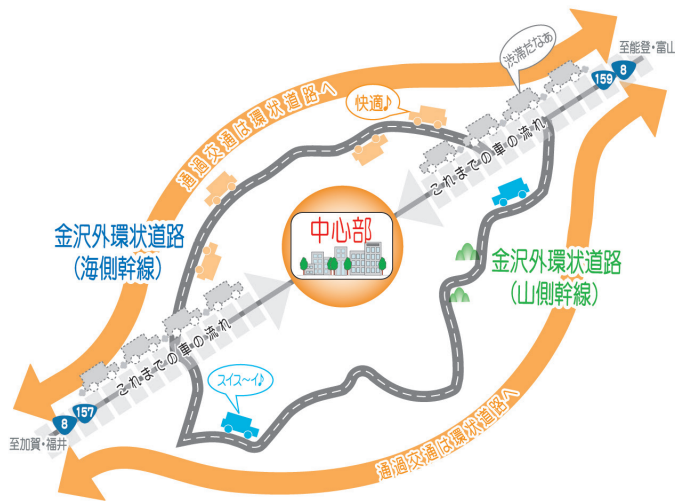


▲金沢外環状道路と山側環状に関連する土地区画整理事業



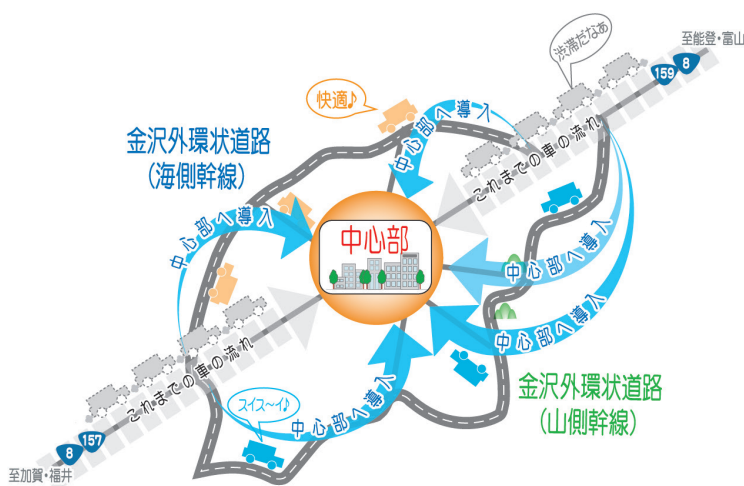
●金沢外環状道路の役割

通過交通の迂回 (イメージ)



都心部に用事のない車は都心部を迂回して快適に通行

市内への経路分散 (イメージ)



都心部に向かうルートが増え、車分散して混雑が緩和

- 山側環状の全線開通により、金沢市内における交通の流れは大きく変化しました。
- 全線開通により、開通直後には浅野川、犀川の河川断面で交通量が5%～6%減少し、10年後の現在では、全線開通前に比べて交通量が10%～11%減少しています。
- 金沢市中心部から山側環状への交通の転換が図られ、現在でも山側環状の交通量は開通直後より増加傾向となっています。
- 金沢市中心部では、交通の転換により幹線道路における混雑が緩和したことで、自転車利用環境の充実が進められ、金沢の都市交通に変化を与えています。
- 道路交通の変化だけでなく、山側環状の周辺では、全線開通からの10年間で土地区画整理事業により良好な市街地が形成され、人口の増加や商業施設などの沿道サービスの充実、産業の集積が進んでいます。
- 金沢のまちや人々の生活に大きな変化を与え、新たな活力のきっかけとなった山側環状は、私たちの生活にとって欠かすことのできない重要な道路になっています。

●開通前に対する河川断面を通過する交通の変化

※金沢河川国道事務所・石川県・金沢市による調査結果

